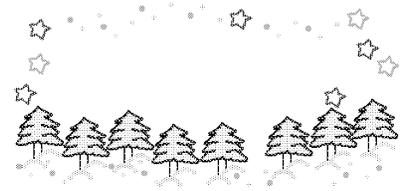


社団法人日本自閉症協会
奈良県支部ニュース

いとしご増刊

きずな 絆



発行人：社団法人日本自閉症協会
編集人：社団法人日本自閉症協会 奈良支部
支部長&事務局：河村舟二
〒639-1005 大和郡山市矢田山町 84-10

<http://www.eonet.ne.jp/~asn/>

購読料1部 100円
会員は会費に含まれています。

映

画会を終えて！
11月26日（金）郡山城ホール（小ホール）にて「自転車で行こう」の上映会が無事終了しました。準備の段階から何をどうしていいのかわからずどうなるのだろう...と思いましたが、皆さんのお力添えのおかげでもとてもいい上映会になりました。本当に有り難うございました。

私たちがの思いとは反して、観賞参加者が少なかつたのが（特に会員の方々）とても残念です。ですが、来て下さった方々の感想はとても深い内容ばかりで感謝すると共に「上映会をして良かった！」と実感しています。

今回、上映会の準備に当たり色々な方との出会いがありました。ある方からこんな質問をいただきました。「自閉症は治らないのですか？例えば肢体不自由の方には車椅子があるように、目が不自由な方には杖があります。自閉症の方には何かないですか？」皆さんはこの質問をどう感じられますか？

私は率直な質問に嬉しく思いました。この映画によって関心を持って下さったこと、そこから自閉症児、者などのように向かい合えば良いか？と考えて下さっているからこそその質問だと思います。一般の方が不思議と思われる事も10人それぞれ違うんだと改めて教えてもらいました。「自閉症って？」と思われる方

はまだまだたくさんいるでしょう。

私たちに質問して下さいました（聞きたくても聞けない人もいます）に感謝して、理解して欲しいと思っただけでなく、少しでも理解していただけるように歩いていこうと思います。

（金本美知子）

● 上映会担当者報告

☆新潟県中越地震の義援金募金箱を設けましたところ、7200円の募金がありました。自閉症協会新潟県支部へ送金させていただきます。ご協力有り難うございました。

☆主人公ブーミョンが働くちっぷり作業所の物品販売をしました。販売に対しての委託料1440円は作業所に寄付いたしました。

☆杉本監督から：各地の上映会が終わる1年後、ビデオにする予定との事です。お楽しみに！

☆「自転車で行こう」今回観賞参加者：300名 アンケート協力：116名

「自転車で行こう」

☆116名の方がアンケートに協力してくださいました。

（主な内容）

・「彼」はやはり色々な経験を経ても「彼」のままであり、私も「自分」であり続けたいと思わせてくれる作品だったと思います。

・自分の生活を精一杯楽しんでる姿を見て救われる思いがしました。決して楽ではないけれど、前向きに生きていこうとする姿勢を見習いたいくらいです。

・私も温かく人々と接することができ人間になりたい！自分の意志をしっかり持って生きていきたいなりました。

・地域の人々に支えられながら、自分の自転車のペダルをこぎだして「みんなが行けるような平和な日本の国になって欲しい」と思います。この映画、もともととたくさんの人に観てもらえると良いですね。

・お互いに気を使わずに自然に生活できるような社会になって欲しいものだ！

・昨年のエイブルとちがつて、すごく身近な感じで見せていただきました。あんな風に奈良の街がなれば良いなと思います。その為にも、少しずつ私にできることをしていけたらと思います。

・ホワイトボードに大切なことを書き始めたとき、涙が出てきました。

・地域の中で育ててもらっている姿が楽しく羨ましかったです。

・私の視野が広がり、私の知らない世界を心に植え付けて下さいました。街でプーミヨンに出会えたら声をかけたくありませんでした。

・私も子供達と各々の自転車を選べる力を一緒に探し求めたいと思いました。

・飾らない姿がフィルムから映し出されていて本当におもしろい映画でした。

・大人になっても地域と関わって生きていけることが理想です。

・色んなところにいるんな人がいて、色んな関わりがあるんだなあと改めて思いました。また、そうして生きていこう！

・プーミヨンに会いたくなりました

・入所施設を併設している当法人の利用者に職員がするべき支援を教えられたような気がする。

・「つきあってみないと分からない」という言葉が、本当にそうだなあと改めて思いました。

・最後に彼がホワイトボードに書き込んだのは、『彼の世界』そのものなんだろうな。

・障害者も健常者も、結局は人です。人と人とのつながりのある社会がいいなあと思えました。

・社会の中ではとっても厳しい現状ですが、優しい心が集まれば、必ず彼たちの

場が増えると思いたいですよね。

・楽しくも哀しくもある映画でした。彼とホワイトボードとの関係が重く感じました。

・全国のプーミヨンを支援する法律が来年からできます。生野だけでなく、全国へ広がればいいですね。

・せっかくの上映会なのに人数が少なかったのに…残念。

・サポートする人たちが普通に接している点は好感が持てたが、自閉症の人たちが我慢することが大変なことに理解をも

う少しして欲しい気もした。

・生野の街が彼の人生を飾り付けているように思えた。生野だからできていると思う。奈良では難しい。

・パニックを起こさないと、あれだけ人の言うことを聞いて大丈夫なのかと思っ

た。

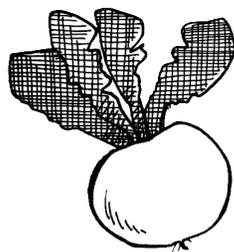
・地域の大切さや周りの人々に支えられながら生活している様子がよく分かり、時には優しく、時には厳しく、障害者だからと特別視せず一人の人間として、その人の成長の為に力を尽くしている様子が伝わってきた。

・学童の指導員さんの気が遠くなるような付き合い方に感動！生野の街の人情が人を育てる。残忍な事件が多い昨今、障害をもったひとたちが誤解されないような地域づくりをしなければならぬと感じ

じた。

・生野区の街は、障害のある人も在日の人も、全ての人々たちをホールディングしている街。その原点は学童保育であろう。全ての人を受け入れ共に育っていく。障害があるからといって、甘やかすことはない。指導員はつきあってみないと分からないと思う。頭「知識」で分かるとうとするのではなく、一歩踏み込んで心で分かるうとしている。「自転車で行こう」は、情報の多い、マニュアル化しがちな子育て「療育」に一石を投じた映画だと思っ

(まとめ金本)



スペシャルオリンピック試走会に行って…

療育部 湯浅です。映画会お疲れ様でした。ありがとうございます。

映画「自転車で行こう」では、登場するすべての人々のキャラがユニークで温かく、皆それぞれに「自分の生き方」に前向きでした。ようしー波風を恐れず、ウチの裕貴も、社会にどんどん出していくゾーと勢いづいて、この日曜日11月28日朝からのスベオリ試走会に、お天気もいいし、気持ちよくジョギングしておいでー、と主人と中学一年の裕貴を送り出しました。ところが…

まず、奈良に引越して1年になるといのに、奈良公園へゆっくり行ったことのない我が家。周辺道路の勝手も、パークキングもあたふた。事務局から送っていただいた、簡単な地図では集合場所もピンと来ずに、「試走会」受付の文字で主人が飛びついたのは、12月9日トーチラン当日に並行して行われる「シテイマラソン」の5kmコースの試走会受付！訳もわからずうち、もちろん併走してくださるボラさんもなく、なんと5kmマラソンに飛び入り参加してしまいました！

「なんかヘン！やばい！」と主人も思ったのですが、コース半ばでコースアウトした裕貴は、そのまま一般観光客の中に…迷子です！

既に5km走り終えた参加者の人たちが大勢巻き込んで、裕貴の搜索が始まってしまいました。駅前方面へバイクで行ってくださる方や、公園内をジョグで探してくださいませ。

スタートから一時間くらいした時、ふらりと一人で召集場所に戻った裕貴の知らせを、私は奈良駅に向かう電車の中で受けました。

神様、一緒に探してくださいました方々、心より感謝します。

スぺオリに参加される方々、当日もシテイマラソンがありますので、集合場所にお気をつけください。(うちさえ気をつけたら大丈夫か?!)

それにしても、秋晴れの奈良公園をだれにも邪魔されたり、文句をいわれることなく、どこをどう歩いたのか：幸せだったろうなあ。本人は何にも語らず、黙って奈良市の詳細地図を笑み浮かべて見入っていました…。

モネ展見たかったのに!

奈良県で行われているモネ展に

こられた他府県の方から、障害者割引がなく、入場を断念した。との投稿を発端に日本自閉症協会ホームページの掲示板で熱い議論が続けられました。○「奈良県立施設には障害者割引が有りません!」と○「教えてください」の二本のスレッド(メール通信の話題のタイトルの意味)がたちました。詳細は <http://www.autism.or.jp/autism/5-index.htm>

にあります。そこで、「…皆様も、この内容を一度ごらんいただき、全国から寄せられる疑問に返答して頂ければ助かります。日本自閉症協会奈良県支部 河村舟二」という文面を関係者にメールで伝えましたところ、奈良県立美術館の関係者から自閉症協会HPの掲示板の内容に関し下記のメールをいただきました。

差出人：奈良県立美術館の代理

日本自閉症協会奈良県支部 河村舟二様

平素は当館の運営にご支援ご協力を賜り御礼申し上げます。さて、このたびは入場料割引制度に関する情報をご提供いただきありがとうございます。早速、掲示板の議論の内容を拝見いたしました。今後の割引制度の検討の参考にさせていただきます。

なお、今回の「モネ展」の割引について、

説明いたします。障害者に対する入場料割引制度については、掲示板にも投稿していただいておりますとおり、常設展の場合、障害者及び介助者1名は無料となっております。ただし、「モネ展」のような特別展は、美術品の借り受けに特別の経費がかかっていることから、障害者の方にも通常の料金をご負担いただいております。今後ともご支援ご協力ほどよろしくお願いいたします。

奈良県立美術館職員様

メールありがとうございました。障害者基本法第23条の扱いが各県で異なっているようです。奈良県でも関係者の方々に是非御議論していただき、障害者本人及び支援者・家族等にとっても優しい制度扱いのご検討をお願いします。

社団法人日本自閉症協会奈良県支部 支部長 河村舟二 の返事をしていきます。

※ 障害者基本法(経済的負担の軽減) 第23条 国及び地方公共団体は、障害者及び障害者を扶養する者の経済的負担の軽減を図り、又は障害者の自立の促進を図るため、税制上の措置、公共的施設の利用料等の減免その他必要な施策を講じなければならない。(河村)

白閉症の脳に免疫系の炎症 米の大学発見☆☆【ワシントン】笹沢教一

米ジョンズ・ホプキンス大学などの研究チームは十五日、自閉症の人の脳に免疫系物質の作用によると見られる炎症が生じていることを発見したと発表した。

炎症が脳細胞の損傷につながるのか、何らかの脳機能を促しているのか、不明だが、研究チームは「脳の免疫反応が関係するとの仮説を支持する発見。自閉症の仕組みを理解し、治療手段を確立するのにつながる」としている。この成果は米神経学会・小児神経学会誌の電子版に掲載された。

研究チームは、五〜十二歳の自閉症児六人の脊髄液と、事故やけがなどで死亡した五〜四十四歳の自閉症の十一人の脳を分析。炎症に関与するサイトカインという免疫たんぱく質が十七人全員で異常に増えていることを確認した。

同大の医師団は「すべての自閉症で炎症が起きていると確認されたわけではない」と慎重な見方をする一方、「脳内の免疫反応が関与している可能性を示すもの」と評価。さらに詳しい分析を進めるといふ。

(2004.11.16 (火) 読売夕刊)

☆事務局から

◎平成16年11月22日(月曜日)、かねてより入院中でありました当支部副支部長の松本直樹さんがお亡くなりになりました。こころよりご冥福を申し上げます。

松本直樹様は日本自閉症協会奈良県支部設立準備の時からいろいろ活動ご尽力頂き、博識で奈良県支部の知恵袋的存在でした。大変個性的な方でしたので、会員の皆様もよくご存じの方だったと思います。

なお、葬儀は松本さんのご意思により、「家族葬」で行われました。通夜23日、告別式24日については成人部の方々には連絡しましたが、療育部の方々その他の皆様には後日「絆」で知らせて下さいとのご家族のご意向でした。(支部長 河村)

☆今回の発達障害者支援法案には次の付帯決議がついています。

発達障害者支援法案に対する付帯決議

平成十六年十二月一日

参議院内閣委員会

政府は、本法の施行に当たり、障害者の個人の尊厳にふさわしい生活を保障される権利等を確認した障害者基本法第三条の基本的理念を踏まえ、次の事項の実現を期すべきである。

一、発達障害の早期発見は、発達障害者に対する早期の発達支援に資するためのものであることに留意し、障害者福祉、医療・保健、保育・教育にかかわる関係者の間における発達障害に関する理解の促進と認識の共有を図ること。

二、発達障害児に対する保育及び教育的支援と支援体制の整備に当たっては、発達障害児が障害のない児童・生徒とともに育ち学ぶことを基本としつつ、発達障害児及びその保護者の意思とニーズを最大限尊重すること。

三、発達障害者の就労を支援するための体制の整備を進めるに当たっては、障害者の就労の機会の確保に配慮し、障害者の雇用の促進等に関する法律について、必要な見直しの検討に速やかに着手すること。

四、発達障害者及びその家族に対する相談・助言体制を可及的速やかに拡充し、及び医療・保健、福祉、教育、就労その他の支援を行う専門的人材を早急に育成する必要性にかんがみ、予算措置を含む適切な措置を講ずること。

五、発達障害者に対する支援の実効性を確保するため、障害者基本計画についての必要な見直しを行うとともに、都道府県及び市町村が策定する障害者計画についても本法の趣旨が活かされるように、必要な助言等を行うこと。

六、発達障害者に対する施策の在り方について、医学的知見や介助方法の向上等、国際的な動向等に十分留意し、常に見直しに

努めること。

七、包括的な障害者福祉法制及び施策の検討に当たっては、障害者の自己決定権及び発達の権利を含む権利・利益の尊重と侵害に対する迅速かつ効果的な救済、経済、社会、文化その他の分野における分け隔てのない参画の促進と自立に向けたきめ細かい支援、障害を理由とするあらゆる差別的排除と差別のない社会の実現を基本的視点として行うこと。

右決議する。

☆福祉医療機構助成「自閉症スペクトラムへのマルチディシプリナリーな支援事業」

一 高機能自閉症&アスペルガー症候群ネットワーク会議(関西) ○日程：12月26日(日) 13:00~16:30 会場：岡山ふれあいセンター大ホール(岡山市桑野715-2) 演題：「自閉症をもつ人たちの就労へ向けたサポートと教育」

高機能自閉症・アスペルガー症候群の問題より」講師：梅永 雄二先生(宇都宮大学教育学部教授)

☆障害者の防災・避難訓練支援及び自閉症シンポジウム

主催：社団法人日本自閉症協会 社団法人日本自閉症協会兵庫支部 協賛：社

会福祉法人全日本手をつなぐ育成会 開催日時2005年1月22日(土) 9:00~18:00 会場 兵庫県・淡路

夢舞台国際会議場兵庫県津名郡東浦町夢舞台1番地 TEL:0799-74-1020)

申し込み：〒670-0962 兵庫県姫路市南駅前100

TEL:0792-89-2120 FAX:0792-81-5545 E-mail: himeji_pn1131@knsjhb.co.jp

B姫路支店「自閉症シンポジウム」係 ☆平成16年度第3回 自閉症児の自立を

果たす為の支援者養成セミナー 日時：平成16年12月4日(土) 14:00~17:30

場所：岡山ふれあいセンター小ホール(岡山市桑野) 演題：「自閉症支援のファースト・ステップ」

〜家庭と学校の連携の中で早期からの支援を〜講師：重松孝治氏(大阪府立藤井寺養護学校教諭)

申込：Tel: Fax: 0869-55-6758 acz60070@sydadn.ne.jp 定員 150人(先着順)

☆平成16年度厚生労働科学研究・石井班研究発表会への参加者募集

参加費は無料です。参加希望者は、別紙「参加申込み用紙」により平成16年12月20日(月)までにお申込みください。

定員になり次第受付を締め切り 日時：平成17年1月10日(月) 10時から16時

場所：こどもの城9階研修室902

905号室

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-53-1

TEL 03-3797-5677 FAX 03-3406-7805

研究テーマ 「高機能広汎性発達障害にみられる反社会的行動の成因の解明と社会支援システムの構築に関する研究」「高機能広汎性発達障害の診断マニュアルと精神医学的併存症に関する研究」「高機能広汎性発達障害にみられる反社会的行動に対する福祉施設間連携による支援システムの構築に関する研究」

☆「自閉症スペクトラムへのマルチデイシプリナリーな支援事業」ー高機能自閉症&アスペルガー症候群 ネットワーク会議(九州)ー〇

日程：2005年1月30日(日)
13:00~16:30 場所：長崎県総合福祉センター4階中会議室(80名収容)

〇申し込み先：日本自閉症協会
E-mail asj@mub.biglobe.ne.jp Fax
03-5273-8438

☆平成17年1月23日(日)
「第11回奈良YMCA軽度発達障がい児理解講座」参加希望者は電話予約が必要
TEL詳細は0742-44-2291

☆以下の国際治療研究所からのパンフレット事務局にあります。・欧州音楽療法〜ドイツ・オーストリアへの旅〜2005年3月2日(水)〜10日(木)募集20名

費用1人3万8千円
同行解説者中島恵子氏

締め切り1月28日・米国発達障害者就労支援視察研修〜ジョブコーチに学ぶ〜
2005年2月6日(日)〜2月13日(日)
カリフォルニア費用39万6千円
同行解説者梅永雄二氏

・日米英の最先端特別支援教育セミナー
LD/ADHD/高機能自閉症・アスペルガー症候群〜講演・ワークショップ
・実践的なロールプレイ・シンポジウム
2005年2月26日(土)・27日(日)

立正大学学園石橋湛山記念講堂
講師：上野一彦、マイク・コリンズ、メリサ・ジョーンズ参加費1万9千円、
電話問い合わせ03-3586-3240

療

育部新年会のお知らせ
来年1月に療育部恒例の新年会を行います。

日時：2005年1月18日(火)
午前11時30分〜午後1時30分
場所：花惣「郡山店」
大和郡山市下三橋町18-5

TEL (0743) 53-3087
参加費：1000円
申し込み締め切り 2005年1月8日
連絡網上の役員まで

＊ お子様連れで別に料理が必要な方は本人負担
＊ 現地集合・現地解散なので、交通手段

のない方は役員まで、お知らせください。
皆さんの参加をお待ちしております。

☆日本自閉症協会本部事務局・兵庫県支部
1月☆障害者の防災・避難訓練支援及び自閉症シンポジウム
定員になり次第締め切りですので申込急いでください。

主催：社団法人日本自閉症協会 社団法人日本自閉症協会 兵庫県支部 協賛：社会福祉法人全日本手をつなぐ育成会
開催日時 2005年1月22日(土)
9:00~18:00

会場 兵庫県・淡路夢舞台国際会議場(兵庫県津名郡東浦町夢舞台1番地)
TEL.0799-74-1020)

10年前に大地震により多くの被害を被った神戸市において、2005年1月18日(火)〜22日(土)まで、国連主催の「国連世界防災会議」が開催されます。この国連会議には、障害者の防災・避難訓練支援を対象としたフォーラムも作られ、自閉症や認知障害のある人たちに対して、情報コミュニケーションツールによる防災・避難の方法を研究している専門家、本人が米国から招かれています。この専門家の方々は、自閉症、アスペルガー症候群の専門家であり、本人、家族、専門家による自閉症の人たちの社会参加を進めている「Human Centered Approach」の提唱者でもあります。日本自閉症協会では、これらの方々

においていただき、自閉症、認知障害の人たちに対する防災支援をどう行ったらよいかをお話いただくとともに、Human Centered Approachの観点から、自閉症支援をどう行ったらよいかというシンポジウムを企画・開催するものです。
講師及びパネルディスカッション参加者

●メイヤー・マックス(米国、自閉症者の親、教育アドバイザー) ●ジョン・パーク(米国、ケンタッキー自閉症センター所長、ルイビル大学準教授) ●ブレンダ・マイルズ(米国、カンザス大学教育学部準教授、アスペルガー教育の第一人者) ●ステイブ・シヨア(米国、本人、ボストン大学博士課程、「壁のむこうへ(学研)」の著者) ●ジャレッド・マックス(米国、本人、メイヤーさんの長男) ●松友了(全日本手をつなぐ育成会 常務理事) ●内山登紀夫(大妻女子大学) ●須田初枝(社団法人日本自閉症協会 副会長)

参加費 一般 5,000円
会員 4,000円(参加者全員にDVDプレゼント!! *参加者の方にはアメリカのケンタッキー自閉症センターで行った5名の本人の座談会「私たちは、社会に、何が貢献できるか」(日本語訳)DVDをプレゼントいたします。定員600名
お申込み締め切り日：定員になり次第締め切ります。

お申し込み先 ①お名前(ふりがな) ②会員・非会員の別 ③住所 ④電話番号 ⑤所属

をご明記の上、郵送、ファックス、Eメールで下記までお送りください。申し込み者に対して、旅行会社より、宿泊や弁当の申し込み方や支払い方法等の詳しい案内をお送りします。

〒670-0962 兵庫県姫路市南
駅前100 TEL:0792-89-
2120 FAX:0792-81-
5545

E-mail: hineji.pn131@knsjtb.co.jp

JTB姫路支店「自閉症シンポジウム」
係 担当:横山・中野・吉澤

☆当日プログラム 2005年1月22日
(土)

○全体の司会進行 河村宏(国立身体障害者リハビリテーションセンター 障害福祉研究部長) ○通訳 同時通訳・重松加代子 他2名

時間プログラム内容

9:00~10:00 受付

開会式:主催者挨拶 須田 初枝(社団法人日本自閉症協会副会長)

10:10~12:00 認知・知的障害者に対する防災活動への参加支援(日本の場合)

認知・知的障害者に対する防災活動への参加支援(米国の場合) ケンタッキー自閉症センター(KATC)の取り組み

本の障害者災害支援の現状について決議採択 河村 宏(国立身体障害者リハビリテーションセンター 障害福祉研究部長)

メイヤー・マックスジョン・バーク(KATC所長) 松友 了(全日本手をつなぐ育成会

常務理事)

12:10~13:20 昼 食切り 作家・上田豊治のプレゼンテーション

13:30 午後のプログラムのテーマ「アメリカにおけるHuman Centered Approach—本人、家族、専門家の協働による社会参加の実現」

13:30 アスペルガー本人の方からのメッセージ ステイブ・シヨア(ボストン大学博士課程「壁のむこうへ」の著者)

13:50 アスペルガー症候群の人たちへの教育支援の実際 ブレンダ・マイルズ(カンザス大学準教授)

14:30 KATCにおける自閉症の人たちの社会参加の支援 ジョン・バーク(KATC所長)

15:10 15:30 休憩 切り画のプレゼンテーション、展示、即売

15:30 17:00 パネルディスカッション Human Centered Approach 司会: 河村 宏

パネラー: ステイブ・シヨア、メイヤー・マックスジョン・バーク、ブレンダ・マイルズ、ジャレッド・マックス、内山登紀夫、須田初枝

17:00~17:45 閉会式・主催者挨拶 解散 兵庫県支部長

※プログラムは予定です。当日変更になる可能性があります。

◆内容に関するお問い合わせは下記までご連絡ください。

ひょうご自閉症・発達障害支援センター「クローバー」

〒671-0122 兵庫県高砂市北浜町北脇

519
TEL: 0792-54-3601

FAX: 0792-54-3403 E-mail: auc.clover@nifty.com

お薦めの本
今読んでいる本をお薦めしたいと思えます。是非とも読んで欲しい本です。

親や家族に対してどのように思っているかなどについても書いてあります。自分の思いを十分に表現できない自閉性障害をもつ多くの人に代わって、この本は私たちに理解をして欲しいと訴えてきます。

2人の対談形式で、編集者が話を進めていくので、とても読みやすいです。この様な本が日本でも出版できるようになったのだと、時代と自閉性障害児者に対する意識や認識の変化を感じます。最近出版されたばかりの本です。

「自閉っ子、こういう風にできています!」ニキ・リンコ×藤家寛子著 花風社 1600円+税 この花風社には、私のホームページからリンクしています。

著者の2人はアスペルガーの女性ですが、ニキ・リンコさんは翻訳家として、AD/HDの本や自閉関係の本など、多数の数々の軽度発達障害の本の翻訳をされています。その中でも、ベストセラーになった翻訳本「片付けられない女たち」では、日本一般の人にもはじめてAD/HD(注意欠陥/多動性障害)を正しく認知させた

一人です。もう一人の藤家さんは、アスペルガーの自分(大学生)が、どのように生きてきたかの自伝「他の誰かになりたかった」藤家寛子著 花風社 1600円+税を最近出されました。この本は、自閉の少女がどう多重人格から目覚めたかという手記です。私はこれを読んで感想を出版社にメールしたら、著者から直接手紙をいただきました。この本の内容は、私たちが不思議に思っていたことや、そうではないかと思っていた事等に対する回答書のような感じがします。自閉性障害の人が世の中をどのように感じ、どのように見ているのかが良く分かります。幼児期から成人期までの思い出を語る中で、私たちがどのような自閉性障害児者に関わっていったら良いのか、反省する事が沢山あると同時に、これからの育児や教育、自立についてのヒントを沢山もらえます。

私はこれらの本を読むことで、自閉性障害児者の研修会での話しや、教育相談の時間にも役立つと思います。特に、これから幼稚園や小学校・中学校・思春期の子供たちを

育てていく保護者の皆さんや療育・教育に関わる人は、是非とも読んで頂きたい本だと思います。

編集後記

今月号大変遅れましたことお詫びいたします。また、都合により会員ページは、今月号編集することができませんでした。ここに深くお詫び申し上げます。